

79GHz帯高分解能レーダの特徴

特徴

- 短距離から長距離までの幅広い範囲で検知・分離が可能
数10cmから数100mの距離離れた状態でも物体を高精度に検知・分離することが可能なため、マルチレンジに対応したレーダシステムとしても活用可能。

海外

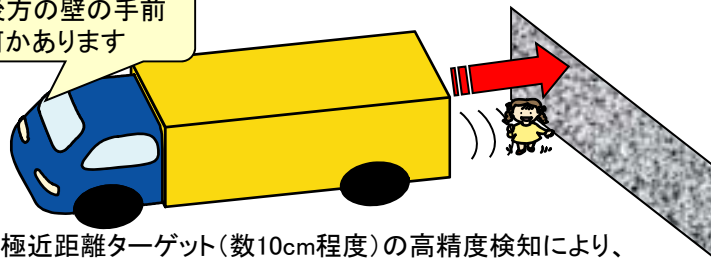
- 欧州では2004年に制度化 周波数帯:77GHz~81GHz 出力:-9dBm/MHz(125μW/MHz)
(今後、米国、アジア諸国等でも導入に向けた検討が開始されることが想定)

既存レーダとの比較

	周波数	占有周波数帯域幅	電力	空中線利得	最大分解能	測距可能な距離
UWBレーダ	22~29GHz	4750MHz以下	-41.3dBm/MHz	—	3cm程度	最大 30m 程度
60GHz帯レーダ	60~61GHz	500MHz以下	10mW	40dBi以下	30cm程度	最大 200m 程度
76GHz帯レーダ	76~77GHz	500MHz以下	10mW	40dBi以下	30cm程度	最大 200m 程度
79GHz帯レーダ(短距離モード) (長距離モード)	77~81GHz を候補に検討	今後具体的に検討			数cm程度 数10cm程度	最大 数10m程度 最大 数100m程度

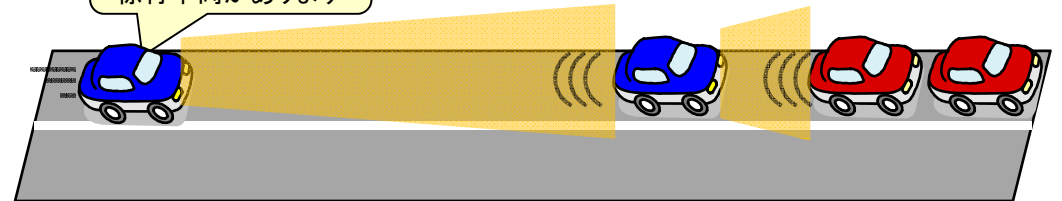
利用シーン

注意:後方の壁の手前に何かあります



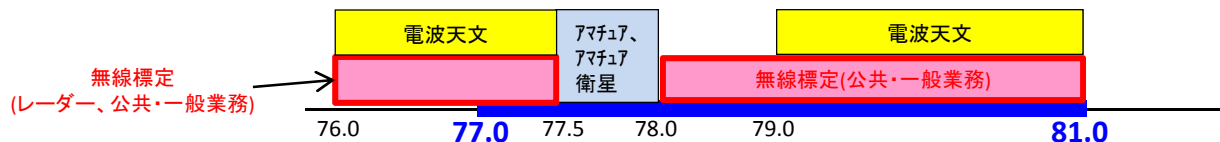
極近距離ターゲット(数10cm程度)の高精度検知により、後方の高度な安全確保を実現。(壁と分離して子供を検出)

注意:前方○100mに徐行車両があります



短距離(数10cm)から遠距離(数100m)までのターゲットの距離及び速度を高精度で検知することで、追従走行や渋滞時追突防止に必要なきめ細かい車間距離制御を実現。

ミリ波帯の周波数割当状況(一次業務)



■ 欧州でのレーダシステムへの周波数割当